

Geography, Society and News (L4-L5)

Japanese 51 (A) / Applied Japanese 7 (A)
2022A

Course available: A Semester, 2022

Offered to: PEAK L4-L5 students and others

Type of class: Elective (選択)

Credits: 2 credits (2 単位)

Time, Place and Instructor

Time: Monday, 2nd period (月 2)

Room: 駒場 10 号館 201 教室

／Komaba Bldg, 10 Room 201

Instructor: 江頭 由美 Eto, Yumi

Email: adzsayumi@icloud.com

Office hour: By appointment



コメントの追加 [EY1]: 授業タイトル確認

★COVID-19 への対応として、第一週目は、オンラインで実施します

授業の目標・概要 (Course Objectives/Overview)

本クラスは、L4-L5 の学生が、日本語で現代社会について議論できるようになることを目的とします。クラスでは、主に現代社会のさまざまな問題を取り上げながら、同時に日本の地理、公民(社会生活を送るのに必要な、政治や司法、経済などに関する一般的な知識)を身につけていきます。そのうえで、自分自身の考えをもとに、課題を発見し、その解決方法を考えることができるようになることを目指します。また、お互いの立場・意見を尊重し、同時に批判的、論理的に考え、多文化の視点から社会問題について学び、深め合うことも求められます。

このクラスの具体的な目標は、以下の通りです。

- 1) 日本の現代社会のさまざまな問題について知識を深めながら、地理や日本社会に関わる一般的な語彙と知識を得る。
- 2) ニュース(記事/テレビのニュース/ウェブサイト)を読んだり聞いたりすることによって、日本社会に関する課題を見つけ、さらには自身のバックグラウンドも参照しながら、論理的に話せるようになる。
- 3) 自分で見つけた課題について、関連情報を収集できるようになる。
- 4) 現代社会のさまざまな問題が、相互に関連していることを知り、多角的(multi sided)な視点を得る。
- 5) 発表やエッセイなどで自分の考えを表現できるようになる。

【主教材】

- ① 教材および問題は、PDFファイルで配布します。
- ② ドリル：小学社会 都道府県と世界の国（早ね早おき朝5分ドリル）
学研プラス（編集），陰山英男（監修） 600円
ISBN：978-4053048554



コメントの追加 [EY2]: ドリルの写真と情報

授業のキーワード

日本の地理 地域社会 地域文化 時事問題 最近のニュース

授業の方法・進め方 (Teaching Methods)

このクラスは予習を中心として進め、クラスでの活動は知識の確認、発表、議論が中心となります。毎回の授業は、学生はすでに予習してあるとして進められます。流れは以下の通りです。

- ① 本文とワークシート（予習）：本文を読み、語彙を確認したうえで、ワークシートに取り組む。
（提出用のワークシートは授業の前に ITC-LMS に提出）
- ② 文法やその他の質問はメモをしておき、クラスで質問する。
- ③ スケジュールを見てその日までにやるドリルをして、答え合わせもしてからクラスに持ってくる。教員がチェックする。
- ④ あらかじめ決めた担当者が、「最近のニュース」を一つ取り上げ、クラスで紹介する。
- ⑤ 予習した内容について、さまざまな視点からクラスの中で考察・議論を行う。
- ⑥ これまで学んだ知識、クラスでの議論をふまえ、自分なりの問いをたてる。

※課題は自分でスケジュールを確認して、決められた方法で決められた時間までに提出してください。遅れた場合は、理由に関わらず減点します。

※提出用ワークシートは、ユニットによっては授業後にもう一度提出してもらう場合があります。

成績評価方法

以下の諸点に基づき評価します。

| | |
|------------------|---------|
| 1) クラスへの参加度 | 10% |
| 2) 最近のニュース | 6% |
| 3) ドリル*1 | 2×9=18% |
| 4) 提出物(ワークシート)*2 | 4×9=36% |
| 5) 発表(1回) | 20% |
| 6) 最終レポート*3 | 10% |

| 最終的な成績 | |
|---------|----------|
| A+ (優上) | : 90~100 |
| A (優) | : 80~89 |
| B (良) | : 70~65 |
| C (可) | : 64~50 |
| F (不合格) | : 49~0 |

合計 100%

*1 ドリル(教科書:早ね早おき 朝五分ドリル 小学社会 都道府県と世界の国)は、各自宿題とし、答え合わせしておくこと。授業中にチェックする。

*2 ワークシート9回分の提出を指す。

各課題は「きちんとやったものを提出した」「提出したが内容がよくなかった」「提出しなかった」の3段階で評価する。さらに、その課題についての議論等も評価に含まれる。

*3 最終レポートは、発表1か2いずれかの内容を、クラス内での議論をふまえ、レポートの形に整えたものです。

* 評価の割合は、課題の適切さの評価に基づき、±5%以内の範囲で変更されることがあります。

* 各項目は、A(期待以上に優れている)、B(期待されるレベルに到達している)、C(最低限の水準に達している)、F(さらに努力が必要である)の4段階で評価します。

* 授業参加度は、「積極的か」「対話的か」「創造的か」の3点をもとに評価します。

学習上のアドバイス (Advice for Students)

・必ず宿題や発表などの準備をしてから授業に参加してください。(ほかの人に迷惑がかかります)

・授業内でできることは限られています。自主的に学習する習慣をつけてください。

●各授業の準備と課題

各授業で準備や課題があります。教員の指示に従い、必要なことを行ってください。万が一、クラスを欠席した場合、準備や課題の確認は各自が責任を持って行ってください。

●提出物について

- ・提出の期日は必ず守ってください。締め切りに遅れた提出物は、原則として受け取りません。(理由があつて間に合わない場合は事前の相談により期限の延長が認められる場合があります。ただし、期限が延長された場合、同じ基準で評価することを保証しません。)
- ・提出は、課題ごとに指示された方法に従ってください。

Attendance Policy (出席について)

原則として授業への参加が70%に満たない場合(本クラスでは参加9回以下の場合はF(=不合格)または「未受験」となる。)30分未満の遅刻・早退は3回で不参加1回と計算される。30分以上の遅刻・早退は不参加とする。ネットワークの問題で参加できなかった場合は、教員にその日のうちにメールで連絡すること。

コメントの追加 [EY3]: 確認

Makeup Policy & Due date (メイクアップと締切)

- ・課題は原則として提出期限を過ぎたら受け取らない。ただし、正当な理由がある場合は、証拠(病院の受診記録や公共交通機関の遅延証明書など)と一緒に、可能な限り早い段階で提出すること。
 - ・課題や発表のmake-upは認めない。ただし、正当な理由がある場合は、その証拠(病院の受診記録や、公共交通機関の遅延証明書など)を提出すれば考慮される場合がある。
 - ・期末試験を事故や病気で欠席した場合、原則として遅延証明書や医師の診断書を提出した場合に限り、後日の受験などの代替措置を認める。ただし、試験実施前および試験返却後の受験は認めない。
- ★いずれの場合も、正当な理由がある場合は、早急に教員に相談すること。

不正行為の禁止

- ・試験におけるカンニング、提出課題における他者の著作の盗用などの不正行為は固く禁じられています。提出課題は必ず学生自身のオリジナルでなければなりません。他者の著作を引用する場合は、引用の範囲または内容と、出典が明示されていなければなりません。カンニングや盗用が証明された場合には、大学の規定により、当該学期のすべての科目の成績が自動的に「不可」(F)となります。
- ・教材を外部に提供した場合も不正行為とみなし、当該学期のすべての科目の成績が自動的に「不可」(F)となります。
- ・オンライン講義の録画やスクリーンキャプチャしたもの、ダウンロードしたものを第三者に提供すること、第三者が閲覧可能な形でアップロードすること、講義のZoomリンクを第三者に提供することは禁止します。守られなかった場合は不正行為とみなされ、その科目が開講されている Semester 期間中に履修した全科目(ターム科目を含む)の得点を無効とされ、追試験を受ける資格も与えられません。また、著作権法に触れる場合は法的措置がとられることがあります。

クラスで配布する教材について

教材使用上の注意

- ・クラスで配布した教材や資料は「このクラスを履修した学生がこのクラスの学習を進めるためのみ」認められています。
- ・それ以外の目的のため、無断で他の人に渡したり、アップロードしたりすることを禁止します。
- ・このクラスを履修し、本教材を使用する学生は、上記に同意したものとみなします。
- ・上記に違反し、外部に教材を提供した場合は、理由に関わらず不正行為とみなします。

コース参加のための注意事項

ITC-LMS、ECCS クラウドメール(G Suite for Education)を使えるようにしておいてください

- ① →詳細はこちら<https://www.ecc.u-tokyo.ac.jp/onlineSeminar.html>
<https://www.ecc.u-tokyo.ac.jp/en/>
- ② わからないときは、わかる人を探して聞いたり、HelpDeskに質問したりしてください
<https://www.ecc.u-tokyo.ac.jp/en/emap.html>
- ③ 教養学部の手引きも各自で確認してください
<https://komabataskforce.wixsite.com/forstudents>

このクラスでは、課題の指示、配布などはITC-LMSを使用します。